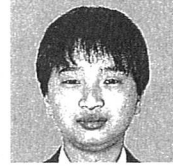




なんとなく表紙に引かれて、この本を手に取りました。読む前は、タイトルの意味を想像しても分かりませんでした。読み終わった今、自分なりに解釈できた気がします。

イギリスで暮らすプレイデイみかこさんが、中学生の息子をモデルとした主人公とその友達との生活を描いたノンフィクションです。主人公が入学した中学校のクラスでは、白人ではないことや、



差別問題に触れ 考え深めた

住んでいる地域を理由に差別される生徒が多くいました。主人公も、日本人とヨーロッパ人の「ハーフ」という生い立ちのため、その対象となります。そこで、ノートに「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」と走り書きをし、母親に見られてしまいます。

僕は、その暗号のような言葉について自分なりに考えてみました。主人公は、その言葉にその時の自分の心情を込めたのだと思います。イエローとホワイトは自分のルーツに当たる人種を表していて、ブルーは悲しいや悔しいといった気持ちがある。差別をしているのだと考えました。

差別をしてはいけないと誰もが分かっているはずですが、現実にはなくなっていない。差別はその人や周りの人を苦しめるし、一生残る傷になるかもしれない。ノンフィクションであるこの作品を通して、僕は現実的なこととしてこの問題に触れることができました。

「ちょっとブルー」と表現した主人公のブルーは、どれほど濃かったでしょう。この本を読んだ、主人公の気持ちと社会問題について考えさせられました。

ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー

プレイデイみかこ著(新潮社)

森政 結太 (広島県世羅町立世羅西中2年)

◇小学生から高校生のみなさん、心を動かされた本を600字程度で紹介してください。図書、著者、出版社名と住所、名前、学校名、学年、電話番号を記し、顔写真を添えてください。掲載作は朝刊電子版にも載せ、図書カードを贈ります。〒730-8677広島市中区土橋町7の1、中国新聞読書面係 フォックス082(291)5828。メールbunka@chugoku-np.co.jp